高畠町立小学校の再編に向けた意見交換会

多様化する社会をたくましく、しなやかに生きぬく
高畠町の子どもたちを育む学校づくりに向けて

高畠町教育委員会

本日の進め方

・開　会

・挨　拶

・説　明

　　『高畠町立小学校の再編に向けた基本方針』

・意見交換

・閉　会

◇本日は、基本方針をご説明した上で、これからの子どもたちの教育環境について皆さまと意見交換を行います◇



【検討の経過／アンケート実施】

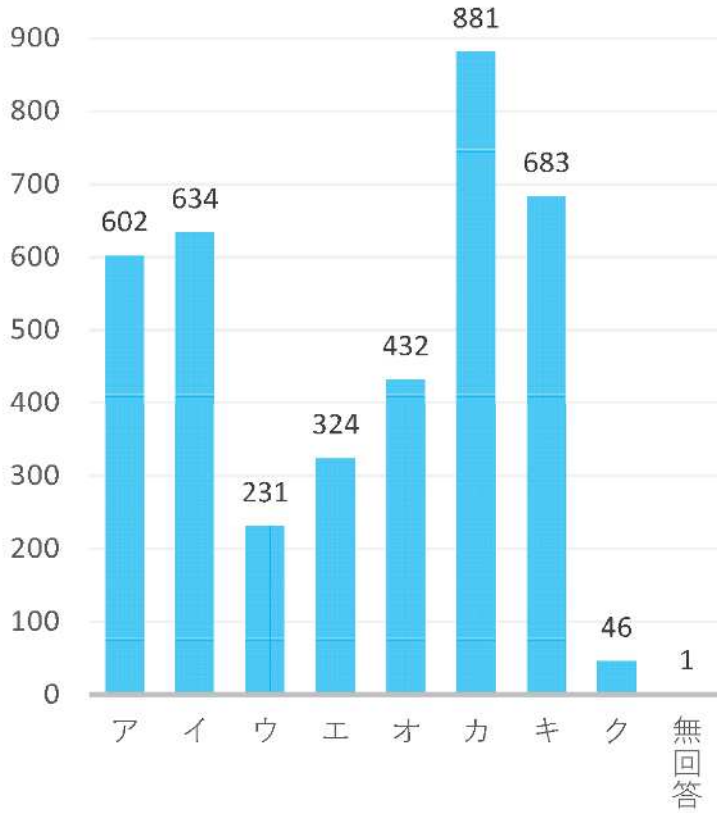
令和5年11月　　小学校の教育環境に関するアンケート実施

対象：保護者・町民 3,000人　回答数1,289人（回答率43.0%）

<アンケート抜粋>

Q. 小学生にとって大事な教育環境は何だと思いますか。3つまで選択。

ア. 校舎などの安全環境
イ. 施設・設備・教具などが充実した環境
ウ. 学校・学級などの規模的環境
エ. 自然とふれあえる環境
オ. 地域社会と密着できる地域の環境
カ. 安心して生活できる学級の環境
キ. 一人ひとりの能力に応じた教育ができる環境
ク. その他

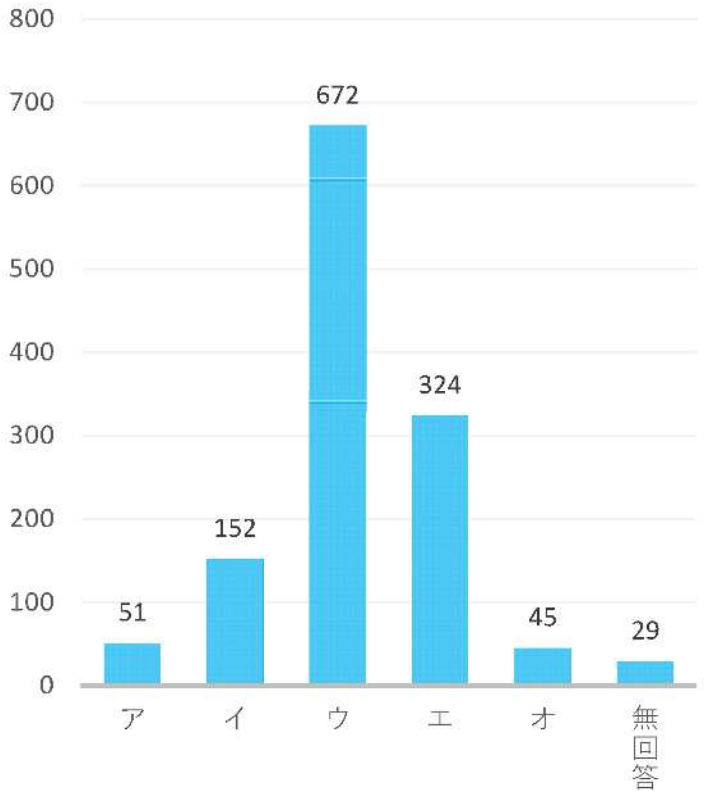


【検討の経過／アンケート実施】

<アンケート抜粋>

Q. 小学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいとあなたは思いますか。

ア. 複式学級
イ. 1学級
ウ. 2学級
エ. 3学級
オ. 4学級以上



○その理由として

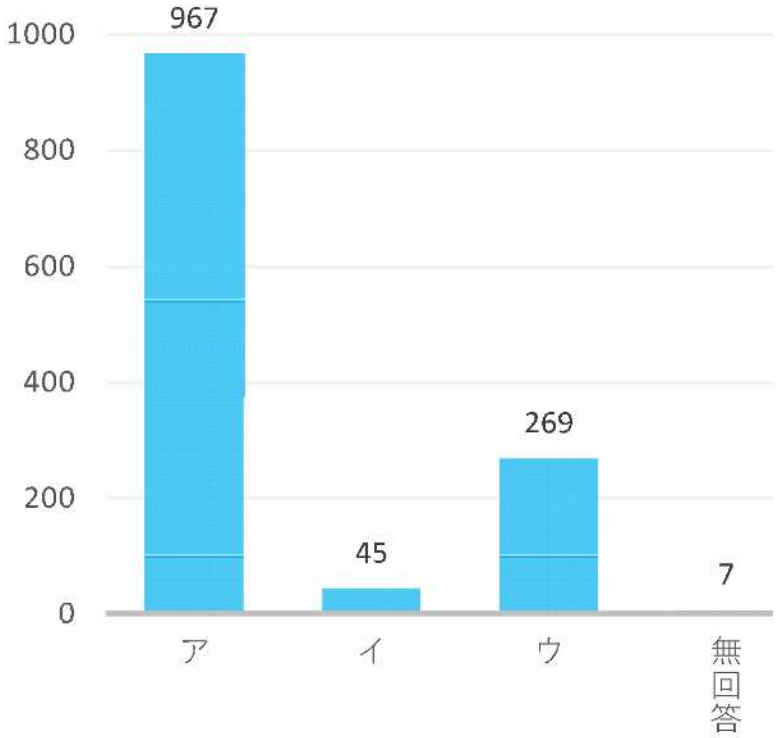
- ・教職員の目が届きやすく、きめ細かい指導を受けやすい
- ・多様な人や考えに触れ、社会性や協調性を身に付けることができる
- ・児童同士の人間関係が深まりやすい

【検討の経過／アンケート実施】

<アンケート抜粋>

Q. 少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、高畠町における小学校のあり方について検討を進めていくべきだと思いますか。

ア. そう思う
イ. そうは思わない
ウ. どちらともいえない・わからない

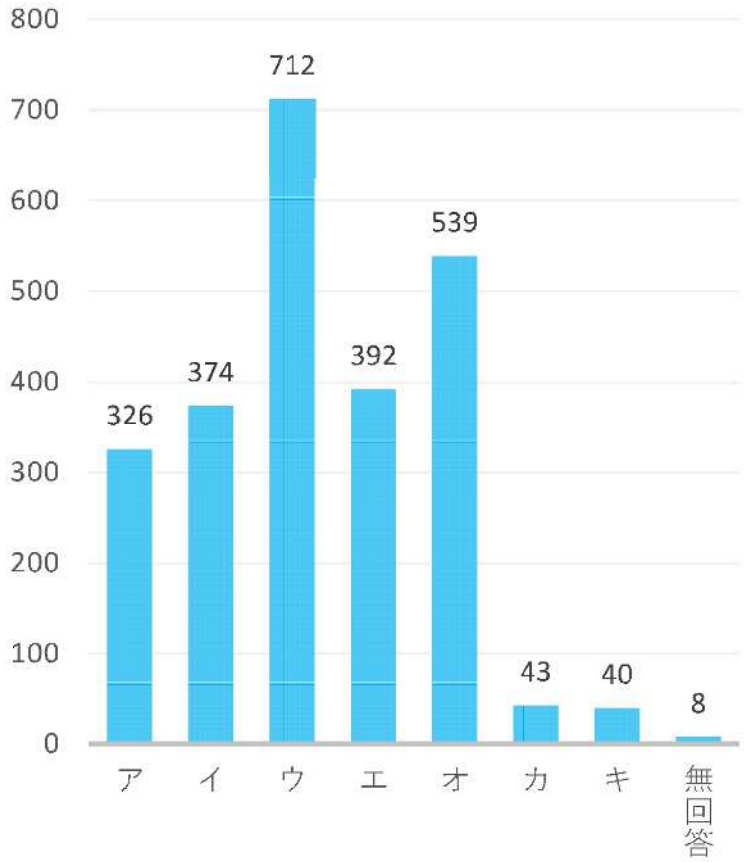


【検討の経過／アンケート実施】

<アンケート抜粋>

Q. 小学校のあり方について検討を進める場合、特に配慮する必要があることは何だと思いますか。
2つまで選択

ア. 複式学級になっても長所を活かして存続させる
イ. クラス替えができる児童数の確保
ウ. 児童の通学手段
エ. 学校と地域活動とのつながり
オ. 学校の建物や施設の整備
カ. その他
キ. 特にない



【検討の経過】

令和6年6月26日　「(仮称)高畠町立小学校適正規模等基本計画」の策定について高畠町長より教育委員会へ諮問

・アンケート調査結果等を踏まえ、基本計画」の策定について諮問　答申：令和7年12月目途

令和6年11月　「高畠町立小学校教育環境等検討委員会」の設置

・検討委員15名で構成　　令和6年11月から令和7年9月まで　全8回開催

令和7年9月29日　「高畠町立小学校の今後の教育環境のあり方に関する提言書」

・高畠町立小学校教育環境等検討委員会より高畠町教育委員会へ提言

令和7年12月　「高畠町立小学校の再編に向けた基本方針」の策定・答申

・令和7年9月の提言を受けて、高畠町教育委員会として、基本方針を策定し、町長へ答申

・基本方針では、遅くとも令和17年4月までには、再編整備された形にすべきとしている

令和8年1月　令和9年度まで答申の基本方針に基づいた具体的な計画の策定について高畠町長より教育委員会へ対応を依頼

・高畠町長より今後の児童数及び学校施設の現状を勘案した上で、令和9年度中の「(仮)町立小学校再編整備計画(案)策定」の対応を求められる。

◆ なぜ、今小学校の再編を考えるのか

児童数の減少

令和元年度　1,228人

令和7年度　984人

令和14年度　628人
（推計）

学校施設の老朽化

多くの校舎・体育館で建築後40年前後が経過。

安全性の確保や設備更新への対応が必要になっています。

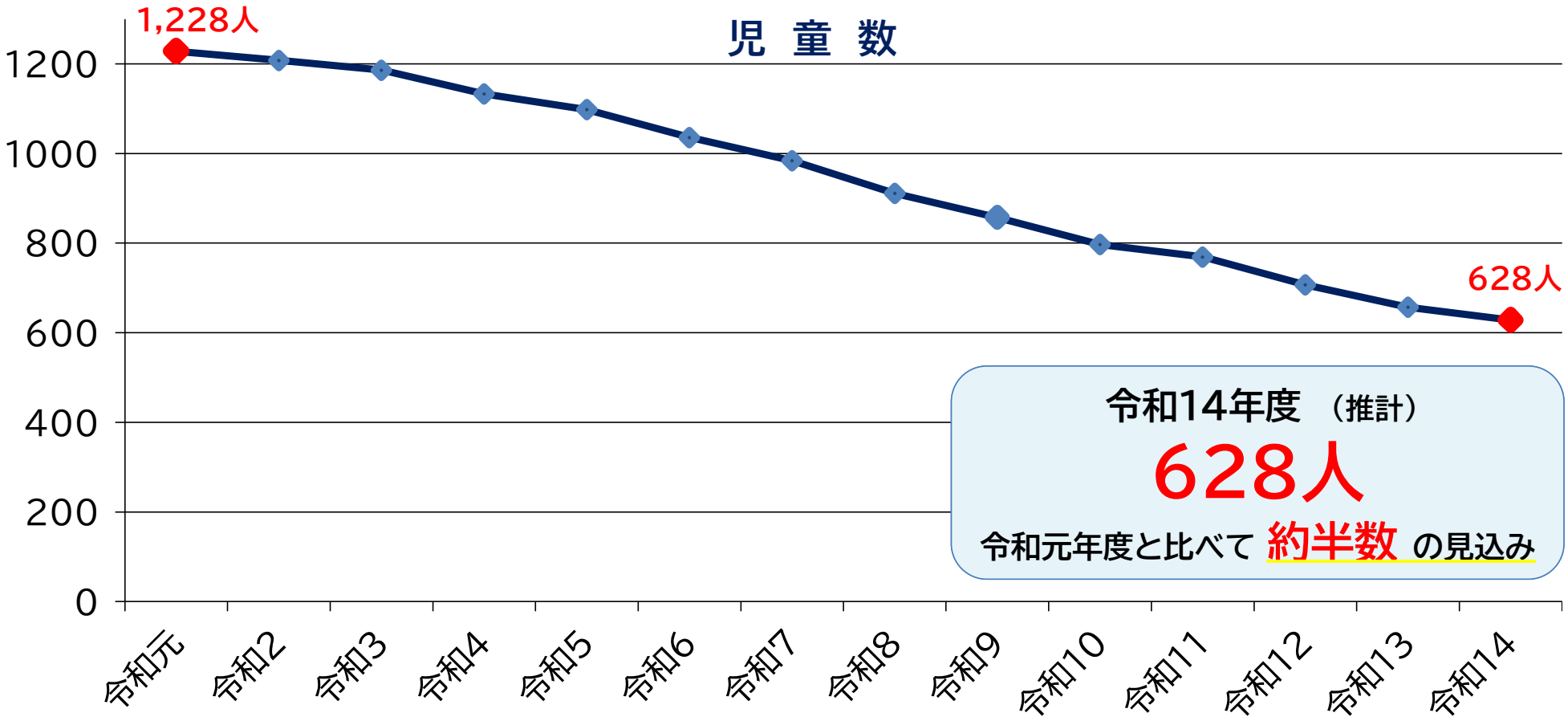
これからの学び

様々な個性と関わり、仲間と協力し、豊かな学びができる環境。

多様な学びの形態を実現できる学校環境が求められています。

大切にしたい視点「子どもたちにとってより良い教育環境とは何か」

児童数の減少①　児童数は今後も減少する見込みです



令和14年度　（推計）

628人

令和元年度と比べて **約半数** の見込み

児童数の減少② 町全体で児童数の減少が続く見込みです

学校名	2019年度（令和元年度）	2025年度（令和7年度）	2032年度（令和14年度）
高畠小学校	337	277	197
二井宿小学校	43	17	12
屋代小学校	223	203	118
亀岡小学校	93	70	41
和田小学校	152	120	43
糠野目小学校	380	297	217
計	1228名	984名	628名

学校施設の老朽化①　学校施設の現状　多くの学校施設が建築から40年～50年が経過

学校名	校　舎		屋内運動場（体育館）	
	建築年	経過年数 （R8.9現在）	建築年	経過年数 （R8.9現在）
高畠小学校	昭和54年	46年	昭和55年	45年
二井宿小学校	平成7年	30年	昭和58年	42年
屋代小学校	昭和60年 ※平成28年大規模改修	40年	昭和61年	39年
亀岡小学校	昭和50年	50年	昭和50年	50年
和田小学校	昭和52年	48年	昭和52年	48年
糠野目小学校	(南)昭和56年 (北)平成16年	44年 21年	平成8年	29年

学校施設の老朽化② 学校の安心・安全の将来にわたる確保

現在学校施設は、経年劣化により「床材の剥がれ」「外壁のひび割れ」等、設備の改修を含めた抜本的な改修が必要な時期にあります。

＜外壁のひび割れ・劣化＞



＜床材の剥がれ＞



＜配管の経年劣化等＞



これからの学び① 高畠町のめざす教育と望ましい教育環境

【高畠町教育目標】 自他のいのちを尊重し、温かい心で共生社会をつくる人間の育成

1. **自ら学ぶ力**
   主体的に判断し、他者と協働して学ぶ
2. **豊かな心**
   多様性や個性を認め合う
3. **健やかな心身**
   安全・安心に、健やかに生きぬく
4. **しなやかな社会力**
   郷土を愛し、地域や社会とつながる

さらに、新たな価値を生み出す力を育むこと、デジタルを正しく活用する力を育むこと
人としての感性を豊かにする教育環境づくりの整備に努めます

これからの学び② 小中一貫教育も「選択肢の一つ」として調査・検討します

小学校
（6年間）

→

中学校
（3年間）

9年間を見通した教育の可能性

児童生徒数の減少や地域社会の課題に柔軟に対応できるよう小中一貫教育について調査・検討していきます。

【義務教育学校】 一つの学校、一つのチーム

小学校の6年間と中学校の3年間をあわせた9年間の義務教育を「一つの学校」として一貫して行う学校制度。校長は1名、教員組織も1つです。小学校と中学校の枠にとらわれず、教職員全体が、9年間を見通した「一つのチーム」として、一貫した教育を行うことが可能。

【小中一貫校】 手を取り合うパートナー

小学校と中学校がそれぞれ独立性を保ちながら、密接に連携する形態。小中それぞれに校長や教員組織が存在しますが、教育方針やカリキュラムを共有し、協力し合います。

基本方針① 小規模校と「標準規模」の学校　それぞれの良さと課題

※文部科学省：小学校の学校規模の標準は「12～18学級（1学年2～3学級）」（地域の実情等により弾力的に判断）

小規模校

【良　さ】

- 一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導を行いやすい
- 児童同士・教職員・地域とのつながりが深まりやすい
- 学校全体で異学年交流や特色ある活動を進めやすい

【課　題】

- 人間関係や学び合う相手が固定化しやすい
- 多様な考えに触れたり、集団で切磋琢磨したりする機会が限られやすい
- クラス替えや大人数での行事・多様な指導体制に制約が生じやすい

標準規模の学校（1学年：2～3学級）

【良　さ】

- 多様な友達や考え方に触れ、協働して学ぶ機会を確保しやすい
- クラス替えが可能になり、人間関係に変化を持たせやすい
- 集団活動・学校行事や、教職員の専門性を生かした指導を行いやすい

【課　題】

- 児童一人ひとりの状況を丁寧に把握するため、より組織的な対応が必要
- 学校規模が大きくなると、学校・家庭・地域とのつながりを大切にするための工夫が必要となる場合がある
- 再編を伴う場合、通学距離・時間や環境変化への配慮が必要

出典：文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（改訂版）」（令和8年8月）等を基に整理

基本方針② 再編に向けて大切にする6つのこと

1 児童の環境変化

交流の機会を設け、
円滑な移行へ

2 日常の指導体制

教員配置・専門性を
生かした授業

3 学校施設等

安全・空調・
バリアフリー等

4 安全・安心

通学路・防犯・
スクールバス等

5 学校・家庭・地域

つながりを維持し、
さらに発展

6 放課後児童クラブ

安全・安心と
利用者の利便性

再編後の学校生活だけでなく、通学・放課後・地域とのつながりまで含めて考えます。

【これまでの検討経過と現在】

これまでの検討の積み重ねを踏まえ、現在、具体的な計画づくりに向けて皆さまのご意見を伺っています。

令和5年11月	小学校の教育環境に関するアンケート実施 （対象：保護者・町民3,000名）
令和6年6月	町長から教育委員会へ基本計画策定を諮問
令和6年11月	「高畠町立小学校教育環境等検討委員会」を設置
令和7年9月	検討委員会から「今後の教育環境のあり方に関する提言書」を教育委員会へ提出
令和7年12月	「高畠町立小学校の再編に向けた基本方針」を策定・町長へ答申
令和8年1月	町長から具体的な「小学校再編整備計画」策定への対応依頼 （令和9年度まで）
現　在	**説明・意見聴取を実施しながら「小学校再編整備計画（案）」を作成**

【令和9年度　小学校再編整備計画の策定】

検討・協議、意見集約・計画決定、計画周知の順に進めます。

5月～8月　検討・協議

- 検討委員会の設置準備
- 小学校再編整備検討委員会
- 小学校再編整備計画（最終案）の策定

8月～9月　意見集約 計画決定

- パブリックコメント
- 教育委員会・総合教育会議で協議
- 小学校再編整備計画策定

10月～12月　計画を説明

- 町民説明会、町づくり懇談会等において計画を説明

意見交換で、皆様にお聞きしたいこと

① 望ましい教育環境	これからの子どもたちに、どのような学校生活を送ってほしいでしょうか。
② 大切にしてほしいこと	今の学校の良さでこれからも残して欲しいことは何でしょうか。
③ 通学・施設・放課後	どのような配慮が必要でしょうか。
④ 地域とのつながり	学校と家庭、地域とのつながりを、これからどう築くとよいでしょうか。

今後の検討に生かすため、率直なご意見をお聞かせください。

これからの高畠町の子どもたちのために

より良い学びの場を
みんなで考える

本日お伝えいただけなかったご意見もお聞かせください。

本日の意見交換会で、時間の都合などによりお伝えいただけなかったことや、お帰りになってからお気づきになったことがありましたら、右のQRコードからご意見をお寄せください。

→
→
→

